

2. ハイリスク児のフォローアップ・スタディ

前川 喜平*1 庄司 順一*2 奥平 洋子*3 小田切房子*3
星 永*3 秦野 悦子*4 瀬戸 淳子*5 星 三和子*6
栗山 容子*7 若葉 陽子*8

研究目的

近年、低出生体重児の後障害については、脳性麻痺(CP)や精神遅滞(MR)などに加えて、注意欠陥多動障害(ADHD)や学習障害(LD)が注目されている。ADHDやLDについては、学齢期までフォローを要する必要があることも多い。しかし、低出生体重児などハイリスク児については、まだ長期追跡研究も少ないし、発達状況を言語、認知、母子関係、家庭環境など多方面からとらえる綿密な研究も少ない。

今回、われわれは、ハイリスク児の知的・社会的(対人的)発達について、少数例ではあっても綿密にフォローアップし、その発達の特徴を明らかにし、保健指導のための基礎的資料を得ることを目的として、学際的な研究チームをつくり、フォローアップ研究を開始した。

研究方法

対象は、低出生体重児とその親である。ただし、出生後の諸変数(母子関係や養育態度など)には妊娠期の状況が影響している可能性もあるので、妊娠期からフォローすることとした。また、従来は母子関係が重視されてきたが、育児における父親の役割も重要であると考えられるので、父親についての資料も収集することにし

た。

調査項目は、1)児については、神経学的診察、発達検査・知能検査、言語能力質問紙、気質質問紙、行動観察(遊び)などであり、2)親については、母性感情・育児態度・家庭環境に関する質問紙、面接、行動観察(母子関係)などである。

調査の間隔は、1才までは3カ月ごと、1才台は6カ月ごと、2才以後は1年ごととし、当面は3才までを目標とし、その後可能であれば7～8才までフォローアップしたいと考えている。

本研究の特徴としては、1)知的能力について、従来の発達検査・知能検査に加えて、認知能力、言語能力や遊びを詳しく検討すること、2)親側の条件を十分に考慮すること、3)家庭訪問による行動観察を行うことなどを指摘することができる。

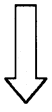
今年度の研究計画としては、まず全体的な計画をたて、研究内容の検討を行った。そして、妊娠期における妊婦およびその夫へのアンケートを作成し(資料参照)、配布を開始した。

今後、これらのアンケート回答者のうち、低出生体重児を出生したものについて、フォローアップしていきたいと考えている。

*1慈恵医大 *2都立母子保健院 *3埼玉県立衛生短大 *4川村学園女子大 *5お茶の水女子大

*6東京家政学院筑波短大 *7国際基督教大 *8東京学芸大

		新生児	1 M	4 M	7 8 M	12 M (1 Y)	1 Y 6 M	2 Y 0 M	2 Y 6 M	3 Y 0 M	4 Y	5 Y	6 Y
前川	小児科的診察	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
	神経学的診察○・ソフトサイン△	○	○	○	○	○	△	△		△	△	△	△
	発達チェック	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	
庄司	気質質問紙	○	○		○		○			○		○	○
	育児態度質問紙									○		○	
	SCT	○			○			○					
埼玉(奥平ほか)	発達・津守式(T)・運動能力(U)			T	T	T	TU	TU		TU	U	U	U
	家族・社会環境質問紙		○	○	○	○	○	○		○	○	○	
	生活状況調査		○	○	○	○				○			
	養育行動・家族関係調査					○				○			
	両親の生育歴・価値観					○				○			
	行動観察(愛着関係) VTR		○	○	○	○	○	○		○	○		
星三和子ほか	総合的知的能力MCC・B(ビネー)				MCC		MCC	MCC		B	B	B	B
	個別的認知課題(シンボリックプレイ)			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	行動観察(遊び)			○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	質問紙			○	○	○	○	○		○	○	○	○
秦野ほか	発達(知的知能)新版K式			○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	行動観察(母子相互作用課題場面)			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	質問紙(ことば)						○	○	○	○	○	○	○
若葉	行動観察(母子交流)			○	○	○	○	○		○	○	○	○
	言語能力質問紙			○	○	○	○	○		○	○	○	○
	母性感情質問紙				○		○			○	○	○	○
	言語検査					○	○	○		○	○	○	○
	行動特徴質問紙					○	○		○	○	○	○	
病院	小児科的診察	○	○	○	○	○	○						
	神経学的診察	N	N	N	N	N	S	S		S	S	S	S
	面接・津守式(T)		○	Ⓣ	○	○	Ⓣ	○	Ⓣ	○	○	○	○
	MCC				○		○		○				
	新版K式			○		○		○					
	田中ビネー									○	○	○	○
	シンボリックプレイ			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
家庭質問紙	行動観察・面接		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	気質	○	○		○		○			○			○
	家族関係・家庭環境・養育行動		○	○		○			○		○		
	育児態度・母性感情				○					○		○	
	言語系				○	○	○	○	○	○	○	○	○
	SCT				○			○					



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



研究目的

近年,低出生体重児の後障害については,脳性麻痺(CP)や精神遅滞(MR)などに加えて,注意欠陥多動障害(ADHD)や学習障害(LD)が注目されている。ADHD や LD については,学齢期までフォローを要する必要があることも多い。しかし,低出生体重児などハイリスク児については,まだ長期追跡研究も少ないし,発達状況を言語,認知,母子関係,家庭環境など多方面からとらえる綿密な研究も少ない。

今回,われわれは,ハイリスク児の知的・社会的(对人的)発達について,少数例ではあっても綿密にフォローアップし,その発達的特徴を明らかにし,保健指導のための基礎的資料を得ることを目的として,学際的な研究チームをつくり,フォローアップ研究を開始した。